

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 22 日 (2006.6.22)

【公表番号】特表 2005-534295 (P2005-534295A)

【公表日】平成 17 年 11 月 17 日 (2005.11.17)

【年通号数】公開・登録公報 2005-045

【出願番号】特願 2004-508744 (P2004-508744)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 31/711 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 9/00 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

G 0 1 N 33/15 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 9/00

C 1 2 Q 1/02

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

C 1 2 N 5/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 5 月 8 日 (2006.5.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

K S R R N A のある領域に対して実質的に相補的なオリゴヌクレオチドであって、K S R の発現を抑制することを特徴とするオリゴヌクレオチド。

【請求項 2】

哺乳類 K S R をコードする核酸に対して実質的に相補的であることを特徴とする、請求項 1 に記載のオリゴヌクレオチド。

【請求項 3】

ヒト K S R をコードする核酸に対して実質的に相補的であることを特徴とする、請求項 1 に記載のオリゴヌクレオチド。

【請求項 4】

哺乳類 K S R をコードする m R N A の翻訳開始部位、5' 非翻訳領域、コード領域、または、3' 非翻訳領域に対して実質的に相補的なオリゴヌクレオチド。

【請求項 5】

K S R の C A 1 領域に対して実質的に相補的な配列を含むアンチセンス・オリゴヌクレオチド。

【請求項 6】

K S R のコード配列のヌクレオチド 1 2 4 から 2 4 3 (配列番号 1)、または、その一部に対して実質的に相補的な配列を含むアンチセンス・オリゴヌクレオチド。

【請求項 7】

K S R の配列の内 1 5 1 から 1 7 9 (配列番号 3)、1 8 1 から 1 9 8 (配列番号 4)、および、2 1 4 から 2 3 1 (配列番号 5) からなる群から選ばれるヌクレオチドに対して実質的に相補的な配列を含むことを特徴とする、請求項 6 に記載のオリゴヌクレオチド。

【請求項 8】

配列番号 6、配列番号 7 および配列番号 8 からなる群から選ばれる配列を含むアンチセンス・オリゴヌクレオチド。

【請求項 9】

検出可能な標識によって標識された請求項 1 に記載のオリゴヌクレオチド。

【請求項 10】

前記標識は、酵素、リガンド、蛍光を発する化学薬品、および、放射性要素から選ばれることを特徴とする、請求項 1 に記載のオリゴヌクレオチド。

【請求項 11】

前記オリゴヌクレオチドは、少なくとも 1 個のフォスフォロチオエート結合を含むことを特徴とする、請求項 1 に記載のオリゴヌクレオチド。

【請求項 12】

哺乳類 K S R R N A、または、その一部に対して相補的なアンチセンス R N A を転写時にコードする核酸配列を含む組み換え D N A 分子。

【請求項 13】

前記核酸配列は転写制御配列に動作的に結合することを特徴とする、請求項 12 に記載の組み換え D N A 分子。

【請求項 14】

請求項 13 に記載の組み換え D N A 分子にトランスフェクトされた細胞系統。

【請求項 15】

K S R R N A のコード配列、またはその一部 / フラグメントに対して実質的に相補的な核酸を発現することが可能な発現ベクターであって、前記オリゴヌクレオチド / 核酸は K S R の発現を抑制することを特徴とする、発現ベクター。

【請求項 16】

K S R R N A のコード配列の C A 1 領域、またはその一部 / フラグメントに対して実質的に相補的なオリゴヌクレオチドを発現することが可能な発現ベクターであって、前記オリゴヌクレオチドは K S R の発現を抑制することを特徴とする、発現ベクター。

【請求項 17】

治療有効量の請求項 1 に記載のアンチセンス・オリゴヌクレオチド、および、薬学的に受容可能なキャリアまたは希釈剤を含む製薬組成物。

【請求項 18】

請求項 1 に記載のオリゴヌクレオチドおよび薬学的に受容可能なキャリアまたは希釈剤を含む組成物。

【請求項 19】

1 種以上の化学療法剤または放射性治療剤、および、哺乳類 K S R をコードする m R N A を標的とし、K S R 発現を抑制するオリゴヌクレオチドを含む組成物。

【請求項 20】

発現ベクターと薬学的に受容可能なキャリアまたは希釈剤を含む組成物であって、前記発現ベクターは、K S R R N A のコード配列、または、その一部 / フラグメントに対して実質的に相補的な核酸を発現することが可能であり、前記核酸は K S R の発現を抑制することを特徴とする、組成物。

【請求項 21】

哺乳類 K S R 発現の抑制法であって、K S R を発現する細胞を、K S R をコードする m R N A の一部に対して相補的な核酸の有効量と接触させることを含む方法。

【請求項 22】

哺乳類 K S R 発現の抑制法であって、K S R を発現する細胞を請求項 1 のオリゴヌクレオチドの有効量と接触させることを含み、それによって哺乳類 K S R の発現が抑制されることを特徴とする方法。

【請求項 23】

哺乳動物における、g f - R a s 発現、または、R a s の発現上昇と関連する過剰増殖状態を治療または予防するための組成物であって、哺乳類 K S R 蛋白の発現を抑制する化合物または薬剤の治療有効量を含む組成物。

【請求項 24】

前記化合物または薬剤は、K S R をコードする m R N A の一部に特異的にハイブリダイズするアンチセンス・オリゴヌクレオチドであることを特徴とする、請求項 23 に記載の組成物。

【請求項 25】

哺乳動物における、g f - R a s 発現、または、R a s の発現上昇と関連する過剰増殖状態を治療または予防するための組成物であって、K S R をコードする m R N A の一部に対して相補的な核酸の治療有効量を含む組成物。

【請求項 26】

哺乳動物における癌の進行を治療または抑制するための組成物であって、哺乳類 K S R 蛋白の発現を抑制する化合物または薬剤の治療有効量を含む組成物。

【請求項 27】

前記癌は、膵臓癌、肺癌、皮膚癌、尿路癌、膀胱癌、肝臓癌、甲状腺癌、結腸癌、小腸癌、白血病、リンパ腫、神経芽細胞腫、頭部・頸部癌、乳癌、卵巣癌、胃癌、食道癌、および、前立腺癌からなる群から選ばれることを特徴とする、請求項 26 に記載の組成物。

【請求項 28】

哺乳動物における癌の進行を治療または抑制するための組成物であって、請求項 1 に記載のオリゴヌクレオチドの治療有効量を含む組成物。

【請求項 29】

K S R の発現を抑制する化合物または薬剤を特定する方法であって、

(c) 候補化合物または薬剤の存在下に、また、不在下に K S R を発現する細胞をインキュベートすること、および、

(d) 候補化合物または薬剤の存在下に、また、不在下に K S R の発現を検出する、または、測定すること、

を含み、前記候補化合物または薬剤不在の場合に対する、前記候補化合物または薬剤の存在下における K S R 発現の低下は、前記化合物または薬剤が K S R の発現を抑制することを示すことを特徴とする、方法。

【請求項 30】

K S R m R N A を分断するリボザイム。